

登録コード	A3420300	開講年度	2026				
授業科目	緑地保全学					担当教員	大窪 久美子
英文授業名	Landscape Architecture and Conservation						上原 三知
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限	対象学生	3年生
講義室	農学部 2 4 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ, 2 0 2 1 Aカリ, 2 0 2 0 Aカリ, 2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加付対象】専門的な知識や研究能力を修得している				緑地の適正な保全とよりよい利用を図るためには、対象地域周辺の景観やランドスケープ単位での生態系を網羅した緑地環境の評価や理解が必須となります。本講義では、まず生態系としての緑地の機能と評価について植生を中心に理解を深め、評価手法について習得できるようになります。次に緑地保全のための計画、管理の知識や技術について理解を深めることとします。さらに、実際に緑地を保全し、適正に活用するためには、地域の社会状況も利用等を踏まえたランドスケープデザインが必要となってきます。そこで後半は、諸制度や地域振興等の事例もまじえ、またその現状と問題点についても習得することができるようになります。本講義は造園・ランドスケープ分野の専門科目として重要です。		
	2 0 2 6 A3 編 (24A), 2 0 2 5 A3 編 (23A), 2 0 2 4 Aカリ, 2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加付対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				緑地の適正な保全とよりよい利用を図るためには、対象地域周辺の景観やランドスケープ単位での生態系を網羅した緑地環境の評価や理解が必須となります。本講義では、まず生態系としての緑地の機能と評価について植生を中心に理解を深め、評価手法について習得できるようになります。次に緑地保全のための計画、管理の知識や技術について理解を深めることとします。さらに、実際に緑地を保全し、適正に活用するためには、地域の社会状況も利用等を踏まえたランドスケープデザインが必要となってきます。そこで後半は、諸制度や地域振興等の事例もまじえ、またその現状と問題点についても習得することができるようになります。本講義は造園・ランドスケープ分野の専門科目として重要です。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	前半では緑地保全とよりよい利用を計画・管理運営していくために必要な緑地の機能や評価手法、また計画及び管理技術について講義します（第1回～第8回）。講義の後半では主にランドスケープデザインとしての視点から緑地について講義します（第9回～第15回）。						
(5)授業計画	第1回：本講義の目的、概説、緑地保全とは（大窪） 第2回：生態系としての緑地の機能（大窪） 第3回：生態系としての緑地の評価（大窪） 第4回：緑地の評価手法1（類似度）（大窪） 第5回：緑地の評価手法2（多変量解析）（大窪） 第6回：緑地の評価手法3（多様性）（大窪） 第7回：緑地保全の計画と管理技術1（ハビタットの設定・自然再生）（大窪） 第8回：緑地保全の計画と管理技術2（生物多様性国家戦略・順応的管理）（大窪） 第9回：ランドスケープ・デザインと法制度(上原) 第10回：ランドスケープ・デザインの事例1（欧米の公園・緑地計画）(上原) 第11回：ランドスケープ・デザインの事例2（日本・アジアの公園・緑地計画）(上原) 第12回：ランドスケープ・デザインと地域資源の持続的な利用（上原） 第13回：ランドスケープ・デザインと地域活性化（上原） 第14回：ランドスケープ・デザインと防災・減災の街づくり（上原） 第15回：ランドスケープ・デザインによる自然循環型社会の構築に向けた課題と可能性（上原）、授業アンケートへの回答 第16回：期末テスト						
(6)自主学習の指針	講義のはじめに参考になる書籍を紹介しますので、自主学習に活用してください。 随時、講義の中で訪れてほしい場所等を紹介します。						
(7)成績評価の基準	期末テスト（8割以上）および講義の演習や小論文、レポート提出の状況、受講態度（2割未満）も評価に加え、総合的に判断します。						
(8)事前事後学習の内容	次の講義までに、前回に説明した内容や課題等を復習してください。						
(9)テストやレポートの予定	期末テストの実施およびレポート課題を出します。						
(10)成績評価の方法	期末試験の結果を重視します。また講義の際の小レポート・演習の内容等を総合的に評価します。 また、評価の基準は以下のとおりとします。 授業の内容が概ね理解できていれば「その水準にある」、十分に理解できていたら「やや上にある」、十分に理解し、応用力があれば「かなり上にある」、とてもよく理解し、応用、さらに発展できる力が備わっていれば「卓越している」						

(11)質問、相談への対応および連絡先	主担当 大窪久美子 緑地生態研究室（B棟4F） e-mail：zuiko@shinshu-u.ac.jp 電話：0265-77-1502
(12)履修上の注意	期末テストを必ず受験してください。 森林・環境共生学コースでは2年次後期に「緑地計画学」を受講した後、本講義を3年前期で受講するよう計画してください。なお3年前期の後半では「森林生態学演習」を履修されると、本講義の内容の一部を実践的な演習で修学することが可能です。
【教科書】	大窪担当回は、教科書「新版生態工学」（朝倉書店）を一部使用します（緑地計画学と同じ書籍）。別途、資料等も提供します。
【参考書】	随時紹介します。